

## 豊かな自然と「交流」による 地方創生の実現に向けて

### 海女と琥珀と 白樺のまち「久慈」

久慈市は、岩手県北東部の三陸沿岸に位置し、西側には標高1000m以上の山嶺を有する北上高地の北端部を、東側には太平洋に面した海岸段丘が連なり、小袖海岸など三陸復興国立公園の代表的な景勝地を有しています。

この小袖海岸では、「北限の海女」の文化が脈々と受け継がれており、現在でも、7月から9月の間「海女」の素潜り漁の実演が行われています。本市がメインロケ地となったNHK連続テレビ小説『あまちゃん』の放映により、久慈市の「海女」が一躍全国区となりました。

また、久慈地方は、古くから知られる国内最大級の琥珀の産地で

もあり、現在、宝飾品などの加工に使われている琥珀の中では久慈産のものが世界最古とされ、地元市民はもとより、本市を訪れる観光客にも古代のロマンを感じさせています。

平庭岳の中腹に位置する広大な平庭高原には、国道281号沿いに31万本もの白樺が群生しており、「日本一の白樺美林」として、四季折々の魅力ある美しさを見せられます。

こうした地域資源は、まちの宝であり、市民の誇りでもあります。人口減少が叫ばれる今日にあって、官民が一体となって次の世代に誇れる「宝」を残していかなければならないと思っています。

平成28年に策定した第二次総合計画では、市民会議や市民満足度

アンケートなどの実施により、市民と一体となった課題分析や計画立案に取り組みました。「子どもたちに誇れる笑顔日本一のまち久慈」を向こう10年間のまちづくりの目指す将来像と定め、各種施策を展開しています。

### 教育旅行を基盤とした ヘルスツーリズムの取組

本市は、平成18年に旧久慈市と旧山形村の合併を経験しておりますが、この旧山形村にあたる山形町地区を中心として、合併以前から豊かな自然や伝統文化を活用した、「体験型教育旅行」の受け入れに取り組んできました。豊かな自然を存分に活用した各種体験プログラムを通じて、子どもたちの豊かな感受性や社会観を養い、机上の知識からは得られないことへの

「気づき」の提供を目指しています。合併後は、従来の農山村中心の体験メニューに「海」の体験メニューも加え、山・里・海の三拍子揃った自然体験が可能となっております。現在では年間約6000人の受け入れを行っています。

現在、こうした教育旅行の受け入れノウハウを活用・深化させ、新たに「久慈版ヘルスツーリズム」の確立に取り組んでいます。「ヘルスツーリズム」とは、旅をきっかけとして、健康への「気づき」を与えることです。この取り組みにより、健康を目的とした本市への旅を提供し、市民・交流客の健康に対する関心への移行のきっかけづくりができればと考えています。平成28年度には、官民一体となって「久慈版ヘルスケアビジネス研究会」を組織し、本市ならではのプログラム作りを進めています。ヘルスツーリズムの商品化に向けては、ガイド養成、情報発信、人材育成、環境整備など取り組まなければならない課題は



素潜りで漁を行う「北限の海女」

## 復興道路整備を見据えた 「広域道の駅」の整備

たくさんありますが、最終的には、「市民の健康増進」「医療費の削減」「新産業（ヘルスケアビジネス）の創出」を目指すとともに、「交流人口の拡大」により、本市への移住・定住の促進、そして「人口減少の抑制」に寄与することが最大の目標です。

平成23年3月の東日本大震災では、本市も津波などにより甚大な被害を受けました。現在、震災か

らの早期復興に向けたリーディングプロジェクトとして「復興道路・三陸沿岸道路」の整備が進められています。この宮城県仙台市と青森県八戸市の間を結ぶ無料の高速道路の整備により、旅行・観光消費動向や交通輸送体系は大きく変化するものと捉えています。

こうした現状を踏まえ、当地域では、広域4市町村が一体となり、三陸沿岸道路利用者に必ず立ち寄ってもらい、かつ既存の道の駅や周辺市町村の観光地へ「ひと」の流れをつくる、「広域道の駅」の整備実現に向けて取り組んでいます。

また、運営にあたっては、補助金が必要としない、「稼げる道の駅」の実現を目指しています。自然溢れる久慈広域圏の魅力を発信し、沿岸地域と内陸地域の交流をはぐくむ道の駅として整備を進めていきたいと考えています。

## 若者の地元定着と市民の まちづくりへの参画

地方創生には、若者の地元定着・活躍の場の創出が必要不可欠です。まちづくりにあたっては、久慈市まち・ひと・しごと創生総合戦略に基づき、若者を中心とした

就業機会を増やすとともに、U・I・Jターンの推進による、中長期的な人口減少の抑制を図るための施策を最優先に取り組んでいます。人口減少が顕著な郊外の地区においては、2名の集落支援員が中心となり、いつまでも住み続けたいと思えるような地域の未来像を地域一丸となって考える「ふるさと未来づくり事業」を展開しています。このように、市民自ら

## プロフィール

- ◆ 面積 623・50 km<sup>2</sup>
- ◆ 人口 3万5794人
- ◆ 世帯数 1万5623世帯

〔将来都市像〕子どもたちに誇れる笑顔日本一のまち久慈

〔まちの特徴〕岩手県北部の太平洋岸に位置する、琥珀、北限の海女、白樺、美林など多くの観光資源を有するまち

〔市町村合併〕平成18年3月6日、久慈市、山形村が対等合併



久慈市長  
遠藤譲一



〔特産品〕琥珀、小久慈焼、短角牛、木炭、ほうれん草、鮭、いか、ウニ、山ぶどう、まめぶ汁

〔観光〕小袖海岸、久慈平庭県立自然公園、もぐらんびあ、内間木洞、久慈琥珀博物館、あまちゃんハウス

〔イベント〕久慈秋まつり、北限の海女フェスティバル、久慈みなと・さかなまつり、平庭高原つつじまつり、平庭闘牛大会

がまちづくりに参画できる機会を数多く提供し、市民との「対話によるまちづくり」を進めることが重要であると捉えています。

全国に誇れる美しい自然と豊かな山・里・海の幸に恵まれたこの美しいふるさとを守り、「子どもたちに誇れる笑顔日本一のまち久慈」の実現に向けて、久慈市ならではの地方創生を推進してまいります。

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

## わが

子どもが元気 香る歴史と  
スポーツで紡ぐまち 鹿嶋

## 歴史と文化の香るまち

鹿嶋市は、茨城県東南部に位置し、東は雄大な太平洋に、西は静かな水辺の北浦に臨む水の恵み豊かなまちです。古来、大和朝廷の東国経略の拠点として重要な地勢を占め、常陸国一之宮・鹿島神宮の門前町として栄え、発達してきました。わが市のシンボルでもあります。



寛永11年（1634年）、徳川頼房公が奉納したもので、日本三大楼門の一つである楼門（鹿島神宮）

鹿島神宮は、皇紀元年（紀元前660年）の創祀と伝えられ、東国三社の一つにも数えられている名社で、初詣には、毎年約70万人が訪れる全国的な人気スポットとなっています。祭神は天孫

降臨に先立ち国譲りの交渉をしたといわれる武甕槌神で、武の神として古くから皇室や藤原氏の崇敬を受け、社殿・楼門・宝物類の奉納や所領寄進が繰り返されてきました。80以上もある年中行事の中では、3月9日の祭頭祭、9月1日の神幸祭、12年に一度千年ごとにされる御船祭が特に有名です。

## 東京オリンピックで、「スポーツ先進のまちカシマ」を世界へ

本市は、剣聖・塚原卜伝の生誕の地として、古くから武道が盛んに行われているだけでなく、ウォーキングやグラウンドゴルフなどの市民スポーツも盛んなまちです。また、全国都市対抗野球大会には、新日鐵住金鹿島硬式野球部（ブルーウィングス）が2年連続17回目の出場を果たしており、東京

ドームへの応援ツアーは、市民にとって夏の楽しみの一つとなっています。

さらに、Jリーグ屈指のクラブチーム、鹿島アントラーズのホームタウンでもあることから、子どもから大人まで、世代を超えてサッカー愛好者が多く、全国の強豪チームが出場するサッカー大会も開催されています。

昨年2016シーズンでは、鹿島アントラーズがJリーグと天皇杯の2冠に輝き、さらにはクラブワールドカップ準優勝という偉業を成し遂げたことで、全世界に「カシマ」の名が知れ渡ることになりました。本市では、このネームバリューを生かした地域づくり・まちづくりに取り組むとともに、市民のスポーツ、健康づくりを推進するなど「スポーツ先進の

まち」を目指しています。

そのような中、平成31年には、「いきいき茨城ゆめ国体」のサッカー競技が開催されるとともに、さらに東京オリンピック2020のサッカー会場地に茨城カシマススタジアムが追加決定されました。平成14年のFIFAワールドカップ2002では、本市のボランティア活動をはじめ、国際交流の推進や街並み景観の整備など、ホスピタリティ（おもてなし）が大変高い評価を受けましたが、改めて、国体およびオリンピックを、本市の未来につながる絶好の機会ととらえ、市民や関係者の皆さんと一緒に、着実な準備の下、大会を成功に導いていくとともに、「スポーツ先進のまちカシマ」を国内外の人々に実感していただけるよう取り組んでまいります。

## 子育てするなら鹿嶋市で！

本市では、子どもを「地域の宝」と考え、将来にわたって活力ある地域社会を形成していけるよう





東京オリンピックの開催会場「茨城カシマスタジアム」

「子育てするなら鹿嶋市で！」をスローガンに、子育て支援や教育施策の充実に力を入れています。

子育て施策では、保育所持機児童の解消や、高校生までの医療費助成、病児保育事業、第3子以降の子育てを支援する月額2万円の「子宝手当」の支給など、未来を担う子どもたちの健やかな成長を応援しています。

また、教育施策では、小学生からの英語活動やアクティブラーニングの先駆的推進、アシスタントティーチャー・専科教員の配置、学校図書館への専任司書の配置、小中学校の各教室へのエアコン設置など、市独自施策の充実を図っています。

なお、本年度からは、子育て世代の移住・定住を推進するため、45歳未満の子育て世帯等を対象とした「若年世帯定住促進助成事業」や「新築住宅に対する固定資産税の減免制度」など、住宅取得にかかる支援制度を創設しました。

子育てしやすい、住

み続けたいと思える「魅力的なまち」を目指していきます。

## 未来を創る活力あるまちづくり

昭和30年代後半に始まった世紀の大開発である鹿島開発により、本市は大きな転機を迎え、鹿島港を中心とした一大臨海工業地帯が建設された結果、人口も急増し、鉄鋼業を主要産業とした近代工業都市へと大きく変貌を遂げました。現在は日本を代表する産業集積地となっていますが、その中心に位置する鹿島港は、昭和44年の開港以来、工業港として原材料や製品の海上輸送基地として重要な役割を担ってきました。近年は、東関東自動車道の開通などにより、利便性が向上し、取扱貨物量は6000万tを超えています。それに伴い東京湾岸に立地していた企業の移転も増加し、コンビナート群が形成されています。

今後、外港および北公共埠頭の整備促進や、港湾後背地の土地利用、さらには、港湾物流機能強化のための幹線道路網の整備促進について関係機関に働き掛けるなど、商業機能も含めた港湾機能の

より一層の強化を図り、未来を創る、活力あるまちづくりを進めていきます。

## 共創のまちづくりで豊富な観光資源を最大限に生かす

本市は、美しい自然と歴史的伝統を持ちながら、一方で最先端の科学技術を駆使した工業都市として、またJリーグ鹿島アントラー

ズのホームタウンとして、古代と現代、静（歴史・文化の香り）と動（スポーツによる躍動感）が共存した、活力と魅力にあふれたまちです。本市が持つ豊富な観光資源を、かけがえのない魅力として最大限に生かしながら、今後も市民・事業者・行政が一体となって、共に創りあげる「共創のまちづくり」に取り組んでまいります。

## プロフィール

- ◆ 面積 106.02km<sup>2</sup>
- ◆ 人口 6万7736人
- ◆ 世帯数 2万8050世帯

〔将来都市像〕子どもが元気 香る歴史とスポーツで紡ぐまち 鹿嶋

〔まちの特徴〕美しい自然と歴史的伝統を持ちながら、一方で最先端の科学技術を駆使した工業都市として、またJリーグ鹿島アントラーズのホームタウンとして、活力と魅力にあふれたまち

〔市町村合併〕平成7年9月1日、鹿島町、大野村が合併



鹿嶋市長  
錦織孝一



〔特産品〕鹿嶋灘はまぐり、鹿島タコ、シラス、ヒラメ、汐菜キャベツ、タカミメロン

〔観光〕鹿島神宮、県立カシマサッカースタジアム、塚原ト伝の銅像、塚原ト伝の墓、大野潮騒はまなす公園、鹿島城山公園、下津・平井海水浴場

〔イベント〕鹿嶋まつり、鹿嶋市花火大会、KASHIMA 光のアートギャラリー、鹿島灘はまぐり祭り、かしまビーチサッカー大会、鹿嶋サッカーフェスティバル、鹿嶋市駅伝大会、かしま桜まつり

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

# このまちに暮らす人々に、 何よりも安全を

## 産業が盛んなまち

加東市は、美しい自然、豊かな文化、温かな人々を誇るまちです。2つの中国自動車道インターチェンジ、縦横断する国道175号・372号などによる交通の便から、産業が非常に盛んで、市内4つの工業団地には58社が進出し、活力があふれています。

まちの特産品には、酒米の王者・山田錦のほか、全国9割の生産量を誇る釣り針、鯉のぼりやひな人形などがあり、そのそれぞれに伝統の技が受け継がれています。

## 山田錦のふるさと

多くの日本酒ファン、そして、多くの酒造会社から愛されている山田錦。山田錦は、旧滝野町出身の研究者が、旧社町の酒米試験地

で研究を進めて作り上げた酒米であること、旧東条町を中心とした地域が山田錦栽培の好適地（特A地区）に指定されていることから、加東市は、山田錦誕生の地、山田錦のふるさとと呼ばれています。

本市では、山田錦、ひいては日本酒の消費拡大のために、日本酒による乾杯を推進する条例を制定しています。ぜひ、美しい田園風景と、米づくりに励む人々を思い描きながら、日本酒での乾杯、また、日本酒の消費拡大にご協力をいただければと思います。

## 住みよいまち加東

まちの歴史や伝統、自然を大切にしながら、快適な住環境整備と産業基盤充実を進める本市のまちづくりは高く評価されており、『住みよさランキング2017』（株東

洋経済新報社）では、総合順位全国54位（兵庫県内2位）、快適度全国14位（県内首位）を獲得しています。快適度は、生活に欠かさない公園や下水道といった公共施設の整備状況や、新しい住宅、新しい住人が増えているかどうかで反映されています。これは、まちの「住みよさ」と「発展」に欠かせない要素であり、まちの将来性を示す指標であるともいえます。現在もお、こうした評価が高まるよう、よりよいまちづくりに取り組んでいます。

## 加東市は安全第一！

本市のまちづくりにおいて、一番注力していることは、何よりも市民の安全と安心です。本市では、いつかきつと発生するゲリラ豪雨や地震など、あらゆる災害に

よる被害を最小限に留められるよう、常に備えています。

災害発生時、まず必要になるのが飲料水です。厚生労働省が「水道の耐震化計画策定指針」に定める、1人1日当たり3リットル×3日分の飲料水を、約4万人の市民全員に提供できるよう、地震発生時に水が流れ出さないように弁が作動する緊急遮断弁付き配水池と飲料水用貯水タンクの整備を完了しています。

また、市民が避難所へと避難しなければならなかったときの設



市庁舎近くの公園地下にある飲料水用貯水タンク



備の充実にも重点的に力を注いでいます。

災害時に命を守る上で、非常に有用であるもの。それは、情報です。

現代は、スマートフォン、ノートパソコンなどの普及で、最新の情報を容易に手に入れることができるようになりましたが、それらの機器は電力なくしては役に立ちません。

そこで、本市では、個別供給できることや、運搬が容易であることなどから、災害に強いエネルギー・LPガスに着目。LPガスによる発電機を、市内の指定避難所37カ所すべてに設置して、避難所情報端末などの電子機器を即座に使用できる体制を整えています。



官民各機関との災害応援協定締結（写真左は宇治田原町長）

## 災害に備えた協力体制

大災害には、単独の自治体の力だけでは立ち向かえない場面も多くあります。本市では、災害に備えて、官民のさまざまな機関との協定締結を進めています。

避難所での生活において、少しでもよい環境を確保するために、段ボールベッドや間仕切りを提供してもらえよう、市内にある段ボール工場と協定を締結。また、被災された方々の心のケアも欠かせないことから、日本レスキュー協会との間で、災害救助犬・セラピー犬の派遣に関する協定を締結しています。災害復旧の面では、市民生活の早期回復・安定のため、下水道施設の復旧について、日本下水道管路管理業協会と支援協定を締結しています。

自治体同士での協定では、忠臣蔵にゆかりのある自治体間で締結した災害時の相互応援協定に加盟しているほか、加東市の特産品・日本茶の産地同士という縁で、平成29年7月、京都府宇治田原町との間で災害応援協定を締結しました。今後とも、災害に立ち向かうため、さまざまな機関との協力体制

を築いてまいります。

## これからも、安全と安心を第一に

加東のまちには、観光・文化・暮らしのそれぞれに、語りつくせないほどの魅力があります。しかし、どんな魅力があつたとしても、まず、まちに暮らす人々、ま

## プロフィール

- ◆ 面積 157・55 km<sup>2</sup>
- ◆ 人口 4万356人
- ◆ 世帯数 1万6324世帯

〔基本理念〕美しい自然・豊かな文化・あたたかな人々を誇るまち

〔まちの特徴〕●図書館・図書の貸出密度（1年間の個人貸出点数÷人口）が11年連続日本一（人口4万人以下の自治体の部など）

●市民1人当たりの家庭ごみの少なさが5年連続県内1位

●合併時の人口は4万1777人。人口減の時代と言われる今も、微増が続く

〔市町村合併〕平成18年3月20日、加東市と山田町が合併し、加東市となった。

〔観光〕16のゴルフ場（19コース）、国宝朝光寺（本堂）、西国第二十五番霊場御嶽山、播州清水寺、太平記のふるさと五峰山光明寺、日本一早い鮎漁解禁・闘竜灘、平池公園（大賀ハス）、東条湖、東条湖おもちゃ王国

〔イベント〕国指定重文・上鴨川住吉神社神事舞、県指定重文・秋津百石踊、県指定重文・朝光寺鬼追踊、花まつり・鮎まつり、加東市花火大会、加東市夏のおどり、加東市山田錦乾杯まつり



加東市長  
安田正義



ちを訪れる人々の安全がなければ、その魅力を真に味わうことはできません。今回は、そうした考えから、本市の根幹である安全のまちづくりについて、紹介させていただきます。

私たちは、これからも、市民の安全と安心を第一に、活力あるまちづくりに取り組んでまいります。

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

## 「笑顔みちる水都 とくしま」

### 「笑顔倍增」を実感できるまちづくりを目指して

はじめに

徳島市は、徳島県の東部に位置し、吉野川とその支流がつくり育てた三角州に発達した人口約26万人の県都です。

水と緑に恵まれた環境や温暖な気候といった豊かな自然、世界に誇る「阿波おどり」や「阿波人形浄瑠璃」「四国遍路」などの個性的な文化、「藍染・阿波しじら」「木工製品」をはじめとした特色ある伝統産業などの地域資源に恵まれた都市であります。

まちの中心に鎮座する「眉山」は、どの方面から眺めても「眉」のごとくなだらかな稜線が特徴の美しい山で、中心部のシンボルとして親しまれています。

現在、徳島神戸鳴門ルートと四国縦貫・横断道の結節点として、

グローバル化の進展や高度情報化社会に対応した都市づくりに取り組んでいます。

川がはぐくんだ  
「水都とくしま」

本市を育ててきたものとして、四国一の大河・吉野川をはじめ、大小138の川があります。その豊穡で清らかな流れは、本市に暮らす人々に「郷土愛」や「癒やし」を与えるだけではなく、古くは江戸時代、吉野川流域で「藍」の栽培が盛んになり、すくもという藍染め染料に加工され、その出荷や物資の運搬に川を利用して全国に出荷されるなど、川がはぐくんできたまちであります。

「水都とくしま」の象徴的な存在である中心部の中洲、その形から「ひょうたん島」と呼ばれ、遊歩道



水上から四季折々の風景を楽しむことができる「ひょうたん島周遊船」

や公園が整備されているほか、毎月最終日曜日に開催される川沿いの「バラソル産直市」とくしまマルシェ」では、こだわりの生産者が自慢の逸品を販売しています。また、ひょうたん島の周囲を巡る「ひょうたん島周遊船」が毎日運航し、眉山をはじめ四季折々の風景を、水上から眺めながらクルージングを楽しむことができます。

「つなぐ」「まもる」「おどる」  
まち・とくしま

本市は、今後10年間の新たなまちづくりの指針となる「徳島市まちづくり総合ビジョン」を、本年度からスタートさせています。

「総合ビジョン」では、将来像を「笑顔みちる水都 とくしま」と掲げ、将来像の実現に向けて進むべき方向性として3つの基本目標を定め、未来に笑顔を「つなぐ」、市民の笑顔が「まもる」、そして活力ある笑顔が「おどる」まちづくりに、取り組んでまいります。

「つなぐ」「まち・とくしま」では――

大学などが集中する県内の教育の拠点であることや、のびのびと子育てができる環境を生かした取り組みを進めています。



安心して子どもを産み育てられる環境づくりを支援するため、本年4月から、「子どもの医療費助成を中学校終了まで拡大」とするとともに、乳幼児を抱える子育て家庭が気軽に外出できる環境を整備するため、授乳室やおむつ替えスペースを無料利用できる施設などを認定登録した「赤ちゃんの駅」特設サイトをスタートしました。

## 『まもる』まち・とくしま』では――

今後30年以内に70%程度の確率で発生すると、まさに切迫している状況にある「南海トラフ地震」に備えた取り組みが急務であります。

臨海部の高速道路の盛土法面を活用した「津波避難施設」を計画



400年を超える歴史を持つ「世界に誇る伝統文化“阿波おどり”」

的に整備するとともに、民間建築物の「耐震診断費用や耐震改修費用」を支援し、大規模自然災害などから市民の生命・財産を守る取り組みを進めています。

## 『おどる』まち・とくしま』では――

豊かな水環境やLED産業の先進地としての特徴を生かし、多彩でにぎやかな、まち全体がおどっているような取り組みを進めています。

東京オリンピック・パラリンピックの公式エンブレムに「藍色」が採用されたことを契機とし、徳島県や阿波藍の製品開発に取り組み団体などと連携した「オール徳島」体制を築き、「藍（ジャパンブルー）」と言え徳島」を国内外に戦略的に発信する取り組みを進めています。

また、徳島東部地域DMO（観光地域づくり法人）の立ち上げや、LEDにデジタルアートを融合した新たなイベント「とくしまLEDデジタルアートフェスティバル」を、徳島県と連携して平成30年2月に開催し、徳島の新たな「冬の観光コンテンツ」に成長させたいと考えています。

## 「住みたい、住み続けたい」まちづくり

今後も、「水都」をはじめ本市の魅力に一層磨きをかけ、地方創生に向けた取り組みを加速するとともに、徳島県との協調や周辺自治体との連携強化に努め、「県都とくしま」を再生することで、市民

## プロフィール

- ◆ 面積 191・39 km<sup>2</sup>
- ◆ 人口 25万5513人
- ◆ 世帯数 11万8720世帯

〔将来都市像〕「笑顔みちる水都 とくしま」

〔まちの特徴〕「水の郷100選」に選ばれた「水の都」、日本を代表する夏祭り「阿波おどり」で有名なまち、日本遺産「四国遍路」の5ヶ所札所が存在しているまち

〔特産品〕藍染、阿波しじら織り、木工製品、すだち、カリフラワー、阿波牛、ハモ、渭東ねぎ、なると金時、生しいたけ



徳島市長  
遠藤彰良



〔観光〕阿波おどりが会館、徳島城博物館、ひょうたん島周遊船、とくしま動物園（とくしま植物園、眉山＆眉山ロープウェイ、新町川水際公園・しんまちボードウォーク、とくしまマルシェ）

〔イベント〕はな・はる・フェスタ（4月）、弁天山（日本一低い山）山開き（6月）、吉野川フェスティバル（7月）、阿波おどり（8月12日～15日）、徳島LEDデジタルアートフェスティバル（2月）、とくしまマラソン（3月）、マチ★アソビ（春、秋）

の誰もが「笑顔倍増を実感できる」まちづくりを進めてまいります。

「総合ビジョン」に盛り込んだ施策を着実に具現化し、多くの人々に「そこに住みたい、住み続けたい」と思ってもらえる「市民満足度の高いまち」の実現に向け、渾身の力で取り組んでまいります。

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。